

昭和八年度インフレ豫算の提出は遂に對外爲替の急激なる暴落となり加ふるに×××××への準備——リットン報告、聯盟會議採擇——國際聯盟脱退への進路——國際政局の破綻は爲替のより悪化——表に示せる如くである。

前言せる如く經濟インフレは軍事インフレへと變革された。  
一、經濟インフレ自身は、爲替の下落を左右するが其の結果は國內の生産力を強大にし、貿易バランスを好化せしむる力を持ち、固定資本の流動を計ることによつて爲替下落は相殺される。  
二、軍事インフレは、不生産的の生産にして爲替の下落力を加速度に進め、結局幾何のインフレであつても再生産的能力を發揮せず、農民並に軍需品工場以外の労働者の購買力を減退し、爲替の暴落に伴ひ物價は暴騰し民衆生活苦の加重を來たらしむるのみである。これ即ち軍事インフレーションの本質と結果である。

二、インフレーションと我國の經濟  
一、世界金融市場に王者として君臨する米國のドルに對し軍事インフレより來る爲替の變動は前表に示せる如くである。  
二、以上の結果は必然的に生産部門に各々異なる影響を與へてゐる。  
イ、一般工業への影響

二、第一の關係が吾國金融市場への影響  
表略、説明  
三、前二項の影響は物價指數の上の如き物價騰貴の影響を與へてゐる

日銀東京卸賣物價指數

(明治三十三年十月基準)

月日	指數	日銀西收指數實銀	日銀生計費指數實銀
六年十一月	四〇〇	六六六	六六六
六年十二月	五〇〇	六六六	六六六
七年一月	五九八	六六六	六六六
二月	六〇四	六六六	六六六
三月	六〇一	六六六	六六六
四月	五九一	六六六	六六六
五月	五八三	六六六	六六六
六月	四八四	六六六	六六六
七月	四七七	六六六	六六六
八月	四七五	六六六	六六六
九月	四七四	六六六	六六六
十月	四七二	六六六	六六六
十一月	四七九	六六六	六六六
十二月	四七六	六六六	六六六
八年一月	四七〇	六六六	六六六

四、以上の結果は必然的に生産部門に各々異なる影響を與へてゐる。  
イ、一般工業への影響

主要商品生産指數表 (三菱經濟研究所調査による)

年	縮糸綿	布生	糸絹	織物石	炭	銅	洋紙	紙洋	灰晒	粉	苛性曹達
一月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
二月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
三月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
四月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
五月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
六月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
七月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
八月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
九月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
十月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
十一月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
十二月	二八二	二五二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六

【備考】自大正一〇—一四年平均一〇〇、ただし洋灰のみ大正一四年平均一〇〇